

きょうせいいてき かくり 強制的な隔離

今からおよそ90年前（1930年ころ）、日本はすべての患者さんを療養所へ閉じ込めてしまうことにしました（絶対隔離）。いったん療養所に入れられた患者さんは、死ぬまで外に出られず、家にも帰れないようにしたのです（終生隔離）。

それまでよりもたくさん
の患者さんを閉じ込めるため
に、療養所を広げたり、新し
くつくったりしました。

国や県は、「ハンセン病
は治らないし、恐い病気だ」
「療養所はとても良い場所
だ」と宣伝しました。そして
人びとに、近くでハンセン病の患者さんや患者さんの家を見つけたら、
警察や役所の人に知らせるようにさせました。



印がつけられた患者の家
(熊本県本妙寺付近 1941年)

それぞれの県で、どこが早く全部の患者さんを療養所に入れてし
まえるか、競争までしました（無癩県運動）。

太平洋戦争が起きると、患者さんたちは病気で役に立たない人間
だといわれて、よけいに冷たくされました。